

## 1. 法人の概要

・設置する学校 (平成30年5月1日現在)

(単位:人)

学 校	学科・専攻等	収容 定員	在学 者数	専任教職員数		
				教員	職員	計
新渡戸文化子ども園 (共学)		110	154	20	8	24
新渡戸文化小学校 (共学)		360	375	19		23
新渡戸文化中学校 (共学)		180	51	7	1	7
新渡戸文化高等学校 (共学)	全日制 普通科	300	92	13		14
新渡戸文化短期大学 (共学)	生活学科	160	160	21	9	30
	食物栄養専攻	100	70			
	児童生活専攻	50	33			
	専攻科	224	267			
	臨床検査学科			14	3	17
事務局 (給食を含む)					25	25
合 計		1,484	1,202	94	46	140

・役員および評議員 (平成30年5月1日現在)

役職名	氏 名	説 明
理 事 長	豊川 圭一	就任日 平成19年4月1日
学 園 長	森本 晴生	就任日 平成20年4月1日
常務理事	林 徹	就任日 平成23年4月1日
理 事	9 名	理事会による選任5名、評議員の互選3名、短大学長1名 (理事長、学園長、常務理事を含む)
監 事	2 名	学外者2名
評 議 員	21名	教職員から4名、卒業生から2名、法人に関係ある学識経験者9名、 理事の職にある者(評議員の互選3名を除く)6名

## 2. 事業の概要

当該年度の事業項目	事業の目的、概要
子ども園	<p>1. 学園の教育理念に共感するご家庭の入園者増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の理念に共感の深いご家庭に入園いただけるような入園説明会及び見学会等を開催した。</li> </ul> <p>2. アフタープログラムと長時間保育の組み合わせによるカリキュラム完成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフタープログラム選択と長時間保育の安定運営によるカリキュラムを作成した。</li> <li>・長時間保育経験者チームによるカリキュラムを討議した。</li> </ul> <p>3. 「丁寧な親心での保育」を実践する人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のマネジメント向上研修を実施した。</li> <li>・5部署間(短時間、長時間、2歳児、アフタープログラム、事務)による打ち合わせを行った。</li> </ul> <p>4. 保護者の圧倒的な支持を得られるサポート体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度保護者アンケートによる細かなサービス改善を開始した。</li> <li>・本年度保護者アンケートによる改善点洗い出しを行った。</li> <li>・送迎時の保護者対応及び接遇改善を行った。</li> <li>・1歳児保育(2歳誕生日を迎えた子)を開始した。</li> </ul> <p>5. 学園各校との連携による魅力的な教育活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短大生インターンシップ受け入れの開始及び検討による長時間保育充実と短大学生のキャリア教育を実践した。</li> <li>・プライマリーとの連携によるプレスクールイベントの実施及び将来像の検討を行った。</li> <li>・小中高校の新渡戸クラブとの連携強化を検討した。</li> </ul>
小中学校	<p>【プライマリースクール】</p> <p>1. 定員の確保と小中内部進学への推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数・数学・理科・社会で一貫カリキュラムを開始した。</li> <li>・運動会、芸術祭、新渡戸祭の内容を小中一体の観点から検討し、新たなプログラムを実施した。</li> <li>・保護者会・個人面談の改善 面談内容の標準化 親子面談(未来ディスカッション)を推進した。</li> </ul>

<p>小中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで塾 おけいこ等の実態調査を行った。</li> <li>・セカンダリー通信の全校配布で改革情報の発信を強化した。</li> <li><b>2. 生活・学習における基礎・基本の徹底</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の基礎・基本の確認 共通認識を持った指導の徹底を図った。</li> <li>・教科研・新任研で授業の基礎・基本の確認を行った。</li> <li>・問題解決具体策の検討、実施</li> </ul> </li> <li><b>3. 学校生活がのびのびと楽しめる安心・安全な居場所作り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人カルテ作成による情報共有は、教務システム導入に合わせて実施することになった。</li> </ul> </li> <li><b>4. 遊具・教具等、教育環境整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欲しい遊具をリストアップした。</li> <li>・設置可能な遊具を検討した。</li> </ul> </li> <li><b>5. 児童に寄り添い個性や特性を見出すことができる教員の採用・育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフタースクールと連動した教員採用を行った。</li> <li>・改革に向けてプライマリーとセカンダリーに分けた定例連絡会や会議を取り入れた。</li> </ul> </li> <li><b>【セカンダリースクール】</b></li> <li><b>1. 定員の確保と小中内部進学への推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリー/セカンダリー一貫カリキュラムを開始した。</li> <li>・新行事を開始した。(運動会、芸術祭、新渡戸祭、学習発表会)</li> <li>・校長個人面談を実施した。</li> <li>・内部進学説明会・外部説明会の内容を改善した。</li> <li>・新渡戸クラブと連動した説明会を実施した。</li> <li>・セカンダリースクールニュースを発行した。</li> <li>・学校案内 HP を改定した。</li> <li>・高等学校と連携した募集活動を行った。</li> </ul> </li> <li><b>2. 「修養」を積み「教養」ある人格の形成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新渡戸学」推進・充実を図った。</li> <li>・特別講師によるスペシャル新渡戸学を実施した。</li> <li>・アフタースクールと連携したキャリア教育を推進した。</li> </ul> </li> <li><b>3. 教科の壁を超えた横断的・縦断的な学習活動および、ICT教育と連動した双方向授業の展開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び表現する学習の実践および発表会を実施した。(文章・音声・身体・芸術 各分野での表現活動)</li> <li>・プログラミング教育を推進した。</li> <li>・年間計画および宿泊行事等の見直しを行った。</li> </ul> </li> <li><b>4. 基礎学力の向上と進路を見据えた指導の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「反復学習」を実施した。</li> <li>・個人カルテを活用した。</li> <li>・アフタースクールと連携した時間割の工夫を行った。</li> <li>・一貫カリキュラム(算数・数学・理科)を実施した。</li> </ul> </li> <li><b>5. 英語・英会話教育の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神田外語学院との連携を強化した。</li> </ul> </li> <li><b>6. 専門性が高く授業力もあり、児童・生徒と共に考え自立を支える教員の採用・育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究・研修計画を作成した。</li> <li>・教科指導研究の充実、授業検討会の改善、指導内容・授業等の研究推進を行った。</li> <li>・児童・生徒による学習発表会を行った。</li> <li>・新人研修の改善 学期に1度の研究授業を実施した。</li> </ul> </li> <li><b>7. 食育を柱とした健康教育の推進、心も身体も鍛える環境作り</b></li> </ul>
<p>アフタースクール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>1. アフタースクール利用者増とセカンダリー利用率向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディルーム(学習室)を整備し、学習チューターを配置した。</li> <li>・子どもたちの過ごし方を変更し、プログラム時間を拡大した。</li> </ul> </li> <li><b>2. 幼小中高の連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校における新渡戸クラブの充実を図った。</li> <li>・アフタースクールプログラムの時間、メニューの拡大を図った。</li> <li>・子ども園正課およびアフタースクールメニューの連携を実施した。</li> <li>・中高旧部活動の統合を推進した。</li> <li>・子どもの志を中心とした進路相談を実施した。</li> </ul> </li> <li><b>3. 小中学校セカンダリーを中心としたアクティブラーニングの展開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインプログラムの導入と更なる展開を実施した。</li> <li>・学習発表会(スタディフェスタ)を実施した。</li> </ul> </li> <li><b>4. 多様で質の高いプロ教員集団の構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフタースクールプロ講師とペアを組む教員を採用し、プログラムを運営した。</li> <li>・幼小中高アフタースクール教員の意識を揃える体制を構築した。</li> <li>・アフタースクール運営スタッフの教育・研修を推進した。</li> </ul> </li> </ul>

<p>高校</p>	<p><b>1. 安定した生徒数の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPを中心とした、日常的な発信活動を活性化した。</li> <li>・2018年度学園HPリニューアルの機会を活用し、HPを教育内容がわかりやすい構成に整理した。</li> <li>・公立中、絵画・音楽教室等への訪問活動を推進するとともに、持参コンテンツ・セールスポイント等の戦略を常に検証し、教員間の目線合わせを徹底した。</li> <li>・生徒を教育し、見せていくことで、安心して任せられる学校像をアピールした。</li> <li>・新入生増を図る。現在40名を、特進11名、実技系39名（美術15名、クッキング15名、音楽7名、スポーツ2名）の50名目標を掲げ52名の入学者を確保した。</li> </ul> <p><b>2. コンクール等、校外活動の活性化と成果、および発信のためのプレゼン力・作文力・表現力を磨く活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コースカリキュラムの部分にコンクール対策等を織り込むとともに、他教科でも個々の将来的な力となる実学を推進した。</li> <li>・音楽コース：中野区杉並区高校音楽祭を見学した。</li> <li>・スポーツコース：技術・技能を磨き、表現力を向上させた。全国大会レベルで成果を発揮した。</li> <li>東京夏季フィギュアスケート競技大会：シニア女子の部 総合6位、7位 2名入賞（8月）</li> <li>東京フィギュアスケート選手権大会：シニア女子の部 総合9位、 ジュニア男子の部 総合3位</li> <li>茨城県民総合体育大会フィギュアスケート競技大会：少年A 女子の部 総合1位、2位 2名入賞（10月）</li> <li>第68回全国高等学校フィギュアスケート競技選手権大会：女子の部101人中 36位、43位、男子の部30人中 18位、学校別総合成績 女子12位、 男子13位</li> <li>イランカラプテくしろさっぽろ国体：少年女子の部24人中 16位、 少年男子の部24人中 12位、少年男子として、東京都は7位に入賞（1月）</li> <li>・各自が課題を設定し、午後の時間を活用した、年間を通じた探究学習を実施した。</li> <li>・成果を蓄積する習慣をつけさせるとともに、説明会、新渡戸祭等、折にふれプレゼンの機会を設けた。</li> </ul> <p><b>3. コース3学年の縦割り活動の策定、および自主的なクラス活動・学年活動・学校活動・学園活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒組織と並行して、コースを生かした自治活動の組織を確立した。</li> <li>・他校でいう部活動のように、日常から3学年が交流するコース運営で学園内外のイベントに参加した。</li> <li>・アフタースクール、短大等、学園他校と協働し、異学年活動の機会を頻繁化した。</li> </ul> <p><b>4. コース1期生・2期生の志の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員および生徒によるコース関係大学等への訪問、発信活動により、教育提携を推進するとともに、進路先を確保した。</li> <li>・課題設定、PDCAの習慣づけ、自己管理をさまざまな関係教員の立場から促し、また一人ひとりへの細やかな面談の機会を持つ等、新渡戸ならではの親心の教育を推進した。</li> <li>・学園・提携大学等の力も借りながら、志の実現を支援できる教員を確保した。</li> </ul>
<p>短大(共通)</p>	<p><b>1. 2019年度学生募集活動の活性化による生活学科食物栄養専攻80名、児童生活専攻50名、臨検検査学科80名の定員確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集の幹部専担者を配置することによる戦略的募集活動を行った。</li> <li>・高校・塾への効果的な訪問、オープンキャンパスの改善による志願者のきめ細かいフォローを行った。</li> <li>・指定校の見直し 従来の530校に156校を追加し、合計686校とした。</li> <li>・「自己推薦入試」に代わり9月以降は「AO2期試験」を実施した。</li> <li>・指定校等への徹底訪問・勧誘活動と新規校開拓による志願者数増加</li> <li>・WEBサイト及びSNSを活用した迅速且つ有効な入試広報活動とフォローアップを行った。</li> <li>・web出願を実施した。</li> </ul> <p><b>2. 子ども園、アフタースクール、小中、高校クッキングコース、高校医療理系コース等との連携強化による特色作り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども園や高校クッキングコースとの協働・連携を行った。</li> </ul> <p><b>3. 2018年度 専攻科（調理専攻）設置と充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度 以降のあり方を検討した。</li> <li>2020年度 第三者評価提出用報告書案を作成した。</li> <li>・基礎となる報告書を作成した。</li> </ul> <p><b>4. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実学重視徹底のためのFDを実施した。</li> <li>・専門性の高い人材（実務家教員を含む）の確保と実学教育の質を向上させた。</li> <li>・マナー指導等を通じての学生の社会人基礎力を向上させた。</li> </ul>

短大（生活学科、専攻科）	<p>&lt;食物栄養専攻&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 社会人基礎力及び栄養士としての確かな知識の上に高度な調理技術の積み上げ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた専門職教員（実務家教員を含む）及びプロシェフ等外部講師による実学指導を行った。</li> <li>調理基礎技術を指導した。</li> <li>専攻科進学に繋げる学科カリキュラムの見直しを行った。</li> <li>リメディアル教育（達成度別指導）を行った。</li> <li>マナー講習を実施した。</li> <li>求人企業とのパイプの構築を促進した。</li> </ul> </li> <li><b>2. 調理室及び厨房等での実学重視による実践的技術の習得</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2調理室を使用しての高校クッキングコースとの連携を行った。</li> <li>親子レストランを展開した。</li> </ul> </li> <li><b>3. 専攻科（調理専攻）修了生の就職先の確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>修得技術や知識を生かせるレストラン、カフェ、割烹等への就職を確保した。</li> </ul> </li> </ol> <p>※学生募集及び学園内連携は【共通】へ</p> <p>&lt;児童生活専攻&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 子ども園教員と専攻教員の行き来を促進し、実学を重視した教育を実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども園教員との行き来を積極的に展開し、インターンシップ等の内容を充実させた。</li> <li>「座学から実学へ」を標榜するカリキュラムを編成した。</li> <li>専攻の特色を周知させるオープンキャンパス等入試広報活動を実施した。</li> </ul> </li> <li><b>2. 実学重視により社会人基礎力、専門知識に加え応用力実践力に富む幼稚園・保育所向け人材の養成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども園との連携による専門性の向上を図った。</li> <li>実習の事前・事後指導を充実させた。</li> </ul> </li> <li><b>3. その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻科の6つの専門コースの内容・方法の見直しを行った。</li> <li>実学教育を視野に入れた必修科目の見直しを行った。</li> </ul> </li> </ol> <p>※学生募集及び学園内連携は【共通】へ</p>
短大（臨床検査学科）	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 高い国家試験合格率と就職内定率の維持</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験に備えた学生指導技方法の改善向上を行った。</li> <li>知的トレーニング時間（ITH）活用による主体性の育成を行った。</li> <li>過去3年間の入学者の成績、適性を早期に検証した。</li> <li>新渡戸フォリオの活用によるラーニングアウトカム確認を行った。</li> <li>2クラス制および2校舎を利用したカリキュラムの作成を行った。</li> </ul> </li> <li><b>2. コミュニケーション能力のある臨床検査技師の育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療人としての基礎力を磨くためのゼミ活動活性化を図った。</li> <li>医療人としての資質向上指導を行った。</li> <li>実習病院担当者によるコミュニケーションに関する講話及び接遇講演を行った。</li> <li>模擬患者参加によるコミュニケーション能力向上実習を行った。</li> </ul> </li> <li><b>3. ベテラン・若手のバランスの取れた優秀教員の確保（非常勤講師を含む）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の能力向上のために更なるFDの活用を行った。</li> <li>専門領域に合わせた偏りのない専任教員の確保を行った。</li> </ul> </li> <li><b>4. 一流病院として評価の高い実習病院の確保</b></li> </ol> <p>※学生募集及び学園内連携は【共通】へ</p>
子ども教育研究所	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 研究紀要発行の継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教員の研究成果の発表を行った。</li> </ul> </li> <li><b>2. 各部署との連携による地域への発信と貢献</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域産学連携委員会による講座を開催した。</li> <li>外部講師による研修会を開催した。</li> </ul> </li> </ol>
臨床検査学研究所	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 新渡戸文化短期大学臨床検査学研究所学術雑誌第3号の発行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度ゼミナール発表会要旨を論文化し、学術雑誌第3号を発行した。</li> </ul> </li> <li><b>2. 研究員による研究に関する情報共有ならびに研究員の学術向上のため、研究報告会を年4回開催</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月、7月、11月、1月の第4週金曜日に研究報告会を開催した。</li> </ul> </li> </ol>
新渡戸・森本研究所	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 新渡戸稲造と森本厚吉に関する資料および情報の収集</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体等で開催される会議への出席、関連施設を訪問した。</li> </ul> </li> <li><b>2. 収集資料の整理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1号館3階から新たな収納場所に移動した保管資料の確認と整理を行った。</li> </ul> </li> </ol>
事務局	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 各校募集活動サポート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>募集拡大施策の提案をした。</li> <li>募集活動の人的サポートをした。</li> <li>学園としての広報活動実施した。</li> </ul> </li> </ol>

事務局

**2. 予算管理の精度向上（学校会計・管理会計）**

- ・学費改定による収入増と厳正なる予算管理により帰属収支の改善を図った。

**3. 事務処理要領の可視化及び共有化**

- ・事務取扱い重要事項の一覧化と共有化を行った。
- ・人事・給与システム、財務会計システム及びWEB財務システムの安定運用を実施した。

**4. 共用施設設備の充実及び老朽化対応**

- ・2号館2階新調理室が稼働した。
- ・1号館1階教員室・トイレを改装した。
- ・子ども園園庭を芝生化した。
- ・短大女子ロッカー室を整備した。
- ・臨検校舎25・26番教室を改修した。
- ・10号館2階を改装した。
- ・体育館床・壁の美装を行った。
- ・1号館3階のPC教室改装による2番教室を設置した。
- ・学園内wifiを設置した。
- ・老朽化・美装化対応を行った。

**5. 他部署への人的サポート体制の更なる充実**

- ・学園各校のイベント及び入試考査等のスケジュールに合わせての助勤を実施した。
- ・教職員健康診断及びストレスチェックの実施と衛生委員会を実施した。
- ・個人情報保護対策を徹底した。

### 3. 平成30年度理事会等の開催状況

日時	会議
平成30年4月19日	理事会
平成30年5月24日	理事会・評議員会
平成30年9月13日	理事会
平成30年12月13日	理事会
平成31年2月7日	理事会
平成31年3月7日	理事会・評議員会

### 4. 財務の概要

・収支の推移(平成26年度までは消費収支、平成27年度からは事業活動収支)

(単位 百万円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
A. 帰属収入(事業活動収入)	1,597	1,665	1,682	1,713	1,833	1,865
B. 基本金組入額	110	161	150	168	0	△ 42
C. 消費収入(A-B)	1,487	1,504	1,532	1,545	1,833	1,907
D. 消費支出(事業活動支出)	1,550	1,583	1,636	1,689	1,722	1,849
純資産の増減(A-D)	47	82	46	24	111	16
(基本金組入前当年度収支差額)						